

① 国際交流が盛んな大学とのことですが、英語を使用する機会はどのくらいありますかでしょうか。

② 留学生プログラムや研究者支援等で語学力を活かせる機会はございますでしょうか。

→本学では学生の約7%を留学生が占めており、外国人の教員も近年増加傾向にあるため、特に学生支援や研究支援業務において英語を使用する機会があります。

事務組織としては、学務・国際戦略部グローバル推進課が留学生支援を総括しています。留学生向けプログラムに係る入学選抜から在留管理等の渡日手続き、奨学金に関することや留学相談の業務を行います。その他、各学部や大学院の学務担当者も、留学生に身近な存在として窓口対応等、留学生支援をすることがあります。

また、教員については、特に外国人比率の高い、先端科学高等研究院・総合学術高等研究院の事務を所掌する研究・学術情報部研究推進課や、各研究院の総務担当部署で語学力を活かせる機会が多くあります。

もし英語に不安があっても、英会話研修や英語の授業、様々な語学を学習する職員のグループ等、入職後に学べる機会がありますので、ご安心ください。

③ 職員採用時に持っていた将来像はどんなものでしたか。また、これからの将来像、やりたい仕事などはありますか。

→採用間もない頃は、想像していた以上に業務の幅が広く感じられ、主に目の前の仕事を確実にこなすことに注力し、身近な先輩や上司をロールモデルと捉えていました。

特に若手職員は2～3年毎に様々な部署で経験を積んでいくこととなりますが、複数の部署での勤務を経験するうちに、自身が所属する係単位から課・部・大学全体へと徐々に視野が広がってくるように感じます。

大学をめぐる環境が大きく変化している中でも、経験に基づいた判断力と共に、前例に固執しない柔軟さを併せ持ち、多方面で社会や地域に貢献できる大学の実現に関わっていきたいと考えています。

④ どのような通勤手段を使われている方が多いですか？また、職員用のバス等はございますか？

→横浜駅から大学最寄りの停留所までバスを利用する職員が多いです。また、職員専用ではありませんが、大学構内に入構するバスが2路線あり、特に朝の出勤時には多くの職員が利用しています。

その他、本学には鉄道最寄り駅が4つ（相鉄：和田町駅・上星川駅、横浜市営地下鉄：三ツ沢上町駅、相鉄・JR：羽沢横浜国大駅）ありますので、各駅から通勤する職員もいます。（羽沢横浜国大駅以外からは、更にバスを乗り継いで大学最寄の停留所まで来ること可能です。）

また、自宅から大学まで自動車通勤とすることも認められており、学内の各勤務場所ま

でアクセスの良い交通手段を選択することができるようになっています。

⑤ 学生の方と接する時にコミュニケーション上、意識されていることはありますか。

→話しやすい雰囲気作りと丁寧話を聞くことを意識しています。

また、学生は様々なバックグラウンドを持ち、その時々にな置かれた状況も異なるため、先入観を持たずに接することも心がけています。

学生との日常のコミュニケーションの多くは、所属学部・大学院の学生窓口で行われますが、必要に応じて他の担当部署にも繋ぐことができるような体制をとっています。

⑥ 横浜・神奈川に根差し地域連携に取り組んでいる大学は私立大学にも多いと思いますが、社会連携・地域連携において国立大学だからこそその強み・貴学だからこそその強みはありますか。

⑦ 他の国立大学にはない横浜国立大学ならではの魅力はありますか。

→神奈川県唯一の総合国立大学として、多分野の教員が一つのキャンパスに集い、世界に開かれた日本の窓口として近代化・国際化を先導してきた横浜の地域性に根ざした理念のもと、文理融合・多角的な視野から時代の変化に対応した教育と、先進的・実践的・学際的な世界水準の研究を推進していることが、本学ならではの強みと言えるかと思います。

具体的に研究面では、クロスアポイントメントという雇用制度等を用いて、企業や海外の研究者と連携した研究を進めています。また、本学には医学部がないため、医工連携の実装化を学内だけで推進できないことは研究面での課題だと考えていますが、そのような状況だからこそ、県内の他の研究組織や医療機関と連携しやすいという側面もあります。

また、資金面では資産運用や債権の発行等、経営学部の研究者と連携しながら新たな取組を始める可能性があるなど、課題に対する工夫やメリットに変える方法も色々と検討しています。

その他、地域、産学連携に関する取り組みについては、是非以下の URL をご覧ください。

[横浜国立大学 産学官連携ページ](#)

[横浜国立大学 YNU 研究拠点](#)

[横浜国立大学 地域連携推進機構](#)